

シリーズ「今こそリーマンショックを振り返ろう！」

第四回目/リーマンショックのGDPへの影響とコロナ・ショックのGDPへの影響予想の比較

新型コロナウイルスは今後の景気にどのような影響をもたらすのでしょうか？

GDPの増減割合（四半期ベース、前期比年率）について、リーマンショックの時と今回のコロナ・ショックでの予想を比較してみましょう。

今回のコロナショックでの影響予想は、大和総研の特別レポート「コロナ・ショックと世界経済（※1）」を参照します。大和総研はコロナショックの経済への影響に関する調査分析に精力的に取り組んでいますが、特別レポートは中でもわかりやすく秀逸です。

その中で示されているグラフをご覧ください。（下左図）このグラフは2019年、2020年の実質GDP成長率の見通しですが、コロナ・ショックの影響の大きさを見事に表現しています。

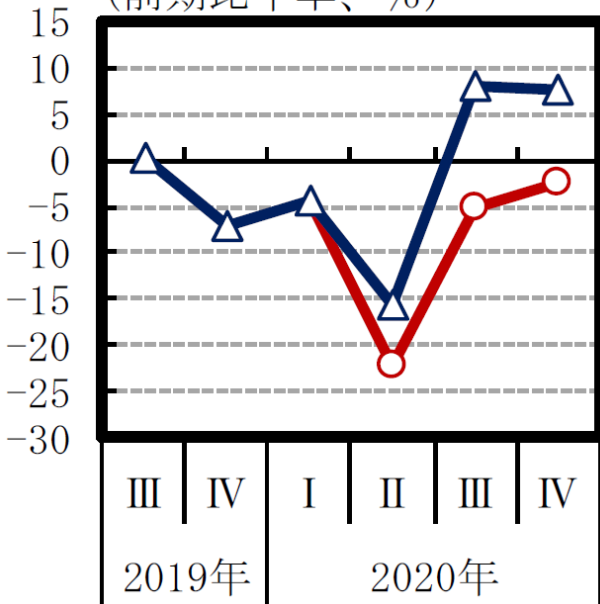
例えば、青の折線グラフは5月終息を想定し、赤の折線グラフは終息に2020年中かかると想定しています。今年の第Ⅱ四半期（4-6月）に▲15%前後（青折線）～▲20%強（赤折線）といった落ち込みになることを示しています。（前期比年率）

一方、リーマンショック時の大きな落ち込みは2008年第Ⅳ四半期が▲13.1%（前期比年率）、2009年第Ⅰ四半期で▲11.7%（前期比年率）でした。（※2）今回はリーマンショックの時の影響に引けをとりません。経済的影響の大きさを理解できます。但し、その後のV字回復には期待が高まります。4-6月は相当な覚悟、同時に7-9月に向けてのしたたかな準備、この両輪が必要でしょう。

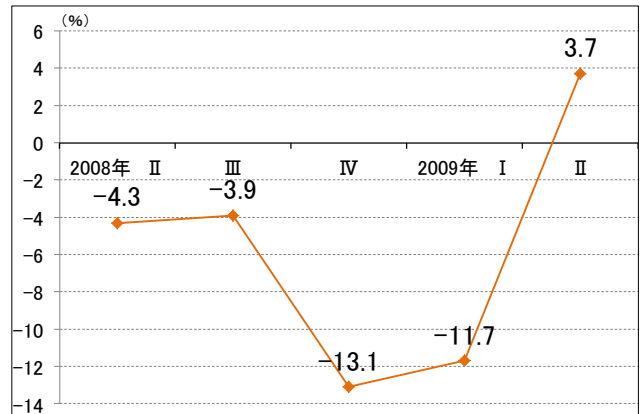
コロナ・ショックの
日本の実質 GDP 成長率への影響見通し
※1：大和総研

日本

（前期比年率、%）



リーマンショック時の
日本の実質 GDP 成長率への影響（前期比年率）
※2：政府統計よりTSO作成



※2：政府統計の総合窓口

<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003376209>

のデータより(株)TSOにてグラフ作成

※1：大和総研特別レポート「コロナ・ショックと世界経済」

https://www.dir.co.jp/report/research/economics/outlook/20200403_021439.pdf

(2020.4.17 株式会社TSO 住宅市場データ室 小間幸一)